

## 21世紀に飛翔する

# 環境先端都市を目指して

市では、平成12年度に環境マネジメントシステムの認証を受け、以来、適用する施設の拡大を図ってきています。

また、今後のまちづくりの指針となる「新大館市総合計画」の中で、新大館市が目指す「まち」のイメージとして、「21世紀に飛翔する環境先端都市」を掲げ、各種施策を展開しています。

18年度からは、「ペットボトルのキャップ回収」と、「こでんリサイクル」を新たに実施しています。



## 市内全小・中学校で ペットボトルキャップを回収しています

「ペットボトルキャップリサイクル事業」は、3月から範囲を拡大し、市内の全小学校にペットボトルキャップ回収袋を設置して回収を実施しています。

通常は「燃やせるごみ」として焼却処分されるペットボトルキャップですが、回収後は軽井沢福祉園で洗浄、選別して、秋田ウッド(株)の製品A O—Mウッドとしてリサイクルされます。

この回収は、5月中旬からはさらに市内の全中学校(11校)にも拡大しています。これにより、可燃性廃棄物の発生を抑

制することになるほか、リサイクルによる環境保全意識を養う運動にもつながるものと考えています。

秋田ウッド(株)からは、キャップの回収量に応じて、「プランター」や「ペンたて」、「ベンチ」などに製品化されたものを各学校に還元していただいています。

市内の小学校で回収しているキャップの第1回の収集は、5月7日、10日、11日の3日間で実施し、軽井沢福祉園での洗浄、選別作業は、11日午前中に行いました。

## こでん(小型電子・電気機器) リサイクルは今後も継続して取り組みます

市では、東北大学が中心となって立ち上げた「R to S研究会」の依頼を受け、平成18年12月15日から秋田県、J O G M E C(独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構)、D O W Aエコシステム(株)、エコリサイクル、(株)いとく、ケーズデンキ(株)、(株)デンコードーなどと共同で「使用済み小型電子・電気機器の回収試験」を実施しています。

これは、小型電子・電気機器に含まれるレアメタル類(稀少金属類)の回収システムを構築するための予備試験として、全国に先駆けての実施です。

### 4月末までの回収結果 回収場所

いとく市内全店、市役所、比内・田代総合支所、各地区公民館、粗大ごみ処理場 計22カ所  
対象こでん

C DやM D、デジカメ、ゲーム機など家電4品目(家電リサイクル法対象品)以外の小型電子・電気機器

### 回収の結果

| 品目 | 61品目   |
|----|--------|
| 個数 | 4642個  |
| 重量 | 6786kg |

※約3カ月でおよそ7tの最終処分物(埋め立て物)を削減できました。

### スーパードで高回収率

当初は、回収ボックスを公的施設に設置することで効果が上がると考えていましたが、実際は生活に密着したスーパーの方が高回収率となりました。また、心配された回収ボックスからの抜き取りなどはありませんでした。

### 今後も回収を継続します

金属資源のリサイクルと最終処分場の延命を図るため、今後も回収を継続していきます。また、回収ボックスは、効率的な配置になるよう設置場所を見直しました。

